

「当別人口増へ重要案件」

町とロイズ J R 札沼線に新駅要望

【当別】菓子製造・販売ロイズコンフレクト(札幌)とともに町が J R 北海道に要望した J R 札沼線の新駅について、宮司正毅町長は6日の町議会代表質問で「交流・定住人口の増加につながる極めて重要な案件だ」と強調し、新駅開業を促すに周辺地域の宅地開発や集客施設整備など町の活性化策を進める考えを示した。(水野可菜)

検討会議で毎月協議へ

代表質問の答弁は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各議員に文書で示した。新駅については山田明(清新)、秋塚信一(緑風舎)両氏の答弁。宮司町長は、町とロイズとともに1月、J R 北海道に対し新駅設置の要望書を出したことを明らかにした上で、今後勉強会を重ね、新駅設置に関する協議を進めていくと答弁した。2月には町、ロイズ、J R 北海道運輸局、道の担当者で「札沼線新駅設置に関する検討会議」を組織し、月

一回程度の会合を開催すると説明した。また、長谷川岳穂副大臣(参院道運筆区)とも1月、関係者を交えて意見交換したと報告。「地方創生を進める上で極めて重要案件である」と J R 北海道の再生モデル事業になるものとして協議を重ねていくとの認識を共有した。

町は新年度から約10年間のまちづくり指針となる「当別町第6次総合計画」に沿って、新駅周辺エリアでは第5世代(5G)移動通信システムを構築する方針。自動運転の車を走らせるなど、先進技術のモデル地区とし、宅地開発や道の駅など既存資源も生かす。「新しいまちの顔」として、周辺一帯での活性化を目指す考えだ。



町とロイズが J R に要望している新駅の設置予定地。奥に見えるのはロイズふと美工場で、直線距離約300m

©北海道新聞社